

地域包括支援センター事業評価ヒアリングについて

ヒアリング日程・評価委員について

2月10日(月)

久松 信夫 様(桜美林大学)
金子 美和子 様(町田市介護サービスネットワーク)
土井 雅文 様(市民代表1号被保険者)
早出 満明(町田市いきいき生活部高齢者支援課)
伊奈 誠(町田市いきいき生活部高齢者支援課)

2月12日(水)

井上 修一 様(大妻女子大学)
吉田 直樹 様(第二東京弁護士会)
長谷川 昌之 様(町田市ケアマネジャー連絡会)
梅田 あき子 様(町田市市民代表)
早出 満明(町田市いきいき生活部高齢者支援課)
伊奈 誠(町田市いきいき生活部高齢者支援課)

ヒアリング当日の内容について

■ヒアリング(40分間)

- ①今年度の重点事業計画書兼報告書について各センターから説明(5分)
- ②事業計画書兼報告書・事業評価表に関する質疑応答。委員からの意見(35分)

■ヒアリング後のまとめ(10分)

- ①事業計画書兼報告書におけるセンターへのコメントの検討
- ②事業評価案の確認

ヒアリングでの主な質問について①

○包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の項目に関連して、
居宅介護支援事業所の支援を行う上で工夫をされていることや大変だと感じることを教えてください。

<主な回答>

- ・ケアマネカフェを毎月1回開催している。また、勉強会なども開催し顔を見える関係を心がけている。
- ・ちょっとした相談の段階から同行訪問ができることを周知し、また、地域ケア個別会議を開催することで課題の解決に繋がることを伝えている。
- ・ケアマネ自身の高齢化に加え、ケアマネ不足の問題もあり、後任のケアマネを探すのが厳しい状況。

ヒアリングでの主な質問について②

○虐待対応・防止の項目に関連して、

虐待事案が発生した際、虐待の事実確認から虐待報告書の作成、具体的な支援計画の作成まで行っているかと思いますが、こうした虐待対応の一連の流れの中で、時間的に実行するのが難しいと思う部分がありますか。また、職員間で分担して虐待対応にあたるなど、何か工夫していることがあれば教えてください。

<主な回答>

- ・虐待事案の相談・通報日から48時間以内に事実確認しないといけないため、週末の場合は時間が厳しく、また、関係者からの聞き取りを拒否された場合も期限内の提出が難しい。
- ・複数体制で虐待ケースに取り組むようにしている。また、被虐待者だけではなく、虐待者にも支援が必要な場合が多く、適切な関係機関と連携を図って対応を進めるようにしている。
- ・虐待報告書を作成するに至るまで、市の担当者も含めて密に連絡をしている。市が虐待かどうかを判断するに足る情報を用意するのには時間が必要である。

ヒアリングでの主な質問について③

○在宅医療・介護連携推進事業の項目に関連して、

市内の医療機関や居宅介護支援事業所とは、どのように関係性の構築をしていますか。
また、関係性を構築するにあたり、困難だと感じるがあれば教えてください。

＜連携センターの回答＞

- ・年に1回、広報誌を配布しながら顔の見える関係性に努めている。
- ・市内の全てのケアマネと連携を図ることは困難。なにかしらの関係性を築くきっかけがないと連携を進めるのが困難だと感じている。